

【事例2】 不要品の社内リユース促進の取組

事業所名	AGC株式会社 AGC横浜テクニカルセンター
事業内容	建築用板ガラス、車載ディスプレイ用カバーガラスの製造、 モビリティ、エレクトロニクス、ライフサイエンス等事業の研究開発
従業員数	1,506名 (2022年4月1日時点)
廃棄物データ	産業廃棄物：3,050t、特別管理産業廃棄物：82t (2021年度実績)

1. 事業所の概要

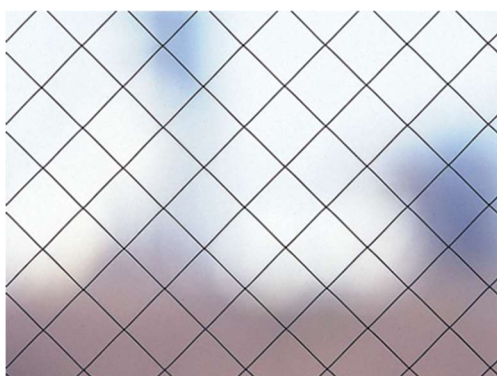
AGC株式会社AGC横浜テクニカルセンターは、最先端技術に対応したガラスの研究開発および住宅・ビル用各種板ガラス、車載ディスプレイ用カバーガラスの生産を行っており、研究開発・生産の主力拠点としての機能を果たしている。

2020年1月に京浜工場から事業所名が変更となり、開港以来新しい文化を積極的に受け入れ発展していく横浜において、地域貢献にも積極的に取り組み企業市民としての役割を果たしていきたい、との考えからこの名称となった。

また、横浜市内にあった中央研究所との統合を行い、素材開発→プロセス開発→設備開発→試作→事業立ち上げ→製造・出荷機能を一貫して取り扱う、これまでにない機能を持った拠点となっており、都心に近いメリットをいかし、開発のスピードアップとイノベーションを創出し、新しい価値を創造すること、多様な専門性を持った人財の融合と協働により新しい文化を生み出すことを目的としている。



研究棟全景



網入りガラス



車載ディスプレイカバーガラス (イメージ)

2. 取組の概要・経緯

当拠点は研究開発から製造・出荷まで、多数の事業に携わる組織（約 50 部門、90 部署）が存在している。

以前は、まだ使用可能だが不要となったモノを、各部署それぞれが廃棄していた。

これら不要品の情報は他部署に全く共有されておらず、廃棄された後に知った社員からの「まだ使えるのにもったいない」との意見を受け、まだ活用できる廃棄対象物を無償で譲る情報を発信するための掲示板（コミュニティーサイト）を創設。排出量全体の削減効果も狙い、掲示板のネーミングを「もったいないnet」と命名した。

3. 取組の内容

(1) 使用ツール（ソフト）

「Microsoft SharePoint：マイクロソフト シェアポイント」を使用。

理由としては、

- ・汎用的で操作性が良く、管理画面の加工なども簡単にできる。
- ・もともと廃棄物の廃棄申請手続きに使用しており、社員にも馴染みがある。
- ・掲示板としても拠点内に浸透しているため、情報発信が行いやすい。

ことが挙げられる。

(2) 全体の流れ

- ① （各部署で）対象物が不要となった時点で、担当者が使用可能かどうか判断。
可能な場合は「もったいないnet」に登録する。 ※使用不可の場合は廃棄申請へ
- ② 件名、本文、写真、資産品（該当、非該当）、譲渡金額（資産品の場合）、受け渡し場所、担当者などの必要情報を入力し、登録する。
- ③ 登録された情報はそのまま「もったいないnet」に掲載される。
- ④ 廃棄物の統括担当者は定期的に掲載情報全体を確認し、掲載情報の発信などサポートを行う。

「もったいないnet」 画面イメージ

ID	登録日時	登録者	件名	本文	写真	申込期限	ステータス
132	12月15日	〇〇 〇〇	ブルーシート	新品未使用 9.7m×9.7m		2022/12/22	SOLD OUT
131	12月14日	■ ■	ポリ容器 10L未使用品2個	広口ポリタンク 10L（詳細： 幅 323 mm×奥行 148 mm×高さ 332 mm、中栓付、耐熱温度 80℃（中栓は60℃） 使用用途が無くなったため、未使用品2個を提供します。 お引き取りは1個からでも構いません。現物確認も可能ですので何かありましたらご連絡ください。		2022/12/21	出品中

4. 苦労した点

(1) 社内への周知

開設当初、社内への周知が進まず、利用率がなかなか上がらなかった。そこで廃棄申請手続きの処理をする際、入力画面に「もったいないnet」のURLを貼り付け、サイトに誘導するなど工夫し、利用率の向上を図った。

(2) 新着情報の通知

基本的には掲示板としての機能しかないので、不要品の掲載があるかどうか、情報を得るためには自分でサイトを見に行かないとわからなかった。

そこで確認してみると通知機能があることがわかり、設定により「もったいないnet」に新規情報が掲載された時点で各部署の代表者にメールで通知されるようになった。

途中、不具合で通知メールが上手く発信されないことがあったが、ヘルプデスクに問い合わせして（多少、改善に時間を要したが）、解決することができた。

(3) マニュアルの整備

社員から「使い方がわからない」という意見があり、不要品を掲載するためのマニュアルを作成し、詳しく説明、利用率向上に寄与した。

5. 取組の成果

(1) 利用率の向上

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
登録件数	30件	5件	11件	29件	45件

※2018年より運用開始。

※2019～2020年は、拠点統合・移転対応のため利用が減少、2021年より再開。

(2) 環境経営への貢献

「もったいないnet」の活用によるリユースの推進により、廃棄物の排出量の削減、処理費用の削減、備品等の新規購入費用の削減などが図れ、環境経営へ貢献できた。

6. 課題と今後の取組

(1) 成果の把握

「もったいないnet」の成果を定量的に把握できておらず、今後一層の促進を図るためにも「見える化」が課題となっている。

(2) 掲載情報の充実

社員の使いやすさ、見やすさを向上させるとともに、成果の定量的な把握のためのデータ（種類、重量等）を把握できるよう、増やす項目の種類を検討する。

(3) 引き取り手が無かった不要物への対応

引き取り手が無かった不要品に対して、ただ廃棄するだけでなく、何らかの活用方法がないか、検討する。

(4) 新規転入者への周知徹底

中央研究所との統合や新入社員など、この拠点への新規転入者に対する運用方法・ルールの周知を継続的にスムーズに実施する方法を検討する。